

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」で評価すべき能力や
そのための作問の在り方等について（論点メモ案）

- ◆ これからの時代に求められる資質・能力を育成するため、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」で評価すべき具体的な能力を整理・明確化。

→別紙 1

- ◆ 現行の大学入試センター試験（国語・数学・理科（物理）・地理歴史（世界史）・英語）を上記の能力概念に照らしてみると、以下のような状況にある。

- ・ 知識の習得状況の評価に優れていることに加えて、多肢選択方式という条件の中でも、与えられた問題を分析的に思考・判断する能力（いわば「分析的な思考力」）の評価に優れている。
- ・ 複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめる思考・判断の能力や、その過程や結果を表現する能力（いわば「統合的な思考力や表現力」）の評価についても一層重視することが期待される。
- ・ 多肢選択方式のため、選択肢の内容を参考として解答するなどのケースもあるとの指摘がある。

- ◆ 特に「統合的な思考力や表現力」は、今後社会で活躍する上で求められるものであり、高等学校教育や大学教育で育成していくことは重要な課題。

こうした課題を踏まえ、平成32年度から実施する「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」においては、以下の（ア）～（ウ）のような点に留意して作問を行うことが必要ではないか。

（ア）問題の質的改善による思考力・判断力・表現力の重視

例：複数のテキストや資料を提示し、必要な情報を組み合わせて思考・判断させる問題を出題

学んだ内容を日常生活と結びつけて考えさせるような問題を出題

連動型の選択式問題、答えが複数個ある問題を出題

数値や式を直接解答させるなど解答方法を工夫 など

(イ)「統合的な思考力や表現力」をよりよく評価するため「記述式」を導入

- 複数の情報を統合し構造化して新しい考えをまとめるための思考力・判断力やその過程や結果を表現する力などの「統合的な思考力や表現力」などについては、(ア)のような改善に加えて、記述式を導入して評価することが有効と考えられる。

→別紙2-①②③

* 記述式を導入する意義として以下のような点が挙げられる。

- ・ 解答を選択肢の中から選ぶのではなく、自らの力で考え出すことにより、より主体的な思考力・判断力の発揮が期待できる。
- ・ 文や文章の作成を通じて思考のプロセスがより自覚的なものとなることにより、より論理的な思考力・表現力の発揮が期待できる。
- ・ 記述による表現力の発揮、特に文や文章の作成に当たって、目的に応じて適切な表現様式を用いるなど、表現力の発揮が期待できる。

- 共通テストとしての性格も踏まえ、当面、以下のような形で記述式の導入を検討してはどうか。

→別紙3

- ・ 対象については、当面、高等学校で共通必修科目が設定されている「国語」「数学」とする。(特に記述式導入の意義が大きいと考えられる「国語」を優先させる。)
- ・ 方式については、「自由記述式」ではなく、解答に当たって一定の条件への適合を求める「条件付記述式」とする。
- ・ 条件設定については、①共通テストとしての採点可能性を高める観点、②問題を解決するための思考・判断・表現のプロセスで必要となる具体的な能力を評価する観点から行う。(教科の知識量を問うものにはしない。)
- ・ 解答を求める字数については、当面は最大で300字程度までで検討。
- ・ 実施に当たっては、採点基準の作成が不可欠。

- ・ 試験時間や採点期間の確保のため、記述式については別の日程で実施することも含めて検討する。
同じく民間との連携での実施を検討している英語（4技能）と同一日程での実施も検討する。
日程については、高等学校をはじめ関係者と十分に調整する。
- ・ 大学側の負担も考慮し、可能な限り民間の力を活用して実施することを検討する。

- 記述式の実施対象科目や字数、実施方法等については、関係団体等の参画を得て、採点や実施に係る技術の動向やコスト等も踏まえ、試行も行いながら継続的に検討することが必要。

(ウ) 英語については、話す・書く・聞く・読むの4技能を評価するため、民間の資格・試験と連携

- 例えば、新センターが基準を示し、民間が作問（原案）・実施・採点を行う体制を検討する。